

本ブックレットのねらい

東北大学において、大学院生と若手教員が先輩教員の授業を参観する取組みを始めて6年が経ちました。授業参観のコーディネーターとして、これまでに70件近くの実授業を参観し、約300件にのぼる参観後の感想に目を通しながら感じていた、「この教員のみなさんの工夫や取組みを多くの人に知ってもらいたい」、「参観者のこの気づき、指摘をもっとたくさんの人と共有したい」という思いから、このブックレットを作成しました。

授業参観をふり返って参観者がまとめたリフレクティブジャーナルにおける記述を紹介するとともに、参観授業を実施した教員が寄せた率直な意見やコメントも掲載しました。授業参観後の感想が共有されることはあっても、授業参観された側の感想や思いは、なかなか目にすることはないでしょう。本ブックレットは、参観者と授業を行った教員の双方の声を届けることを意識して構成されています。この両者の学びの軌跡を読者のみなさんと共有できれば幸いです。

大学における授業参観の取組みは、まだ一般的ではありません。そんななか、「若手の育成のためなら」と授業参観に賛同してくださった教員のみなさんの思い、「これまでは授業をする立場で授業を見たことがなかった」という大学院生、若手教員の素朴な気づき、疑問を読者のみなさんと共有することで、授業参観を疑似体験していただければ大変うれしく思います。

また、大学での授業参観と相互に学びあうことの必要性は、かなり前から指摘されていますが、さほど広がってはいません。シャイな日本人に向かない？と思われるかも知れませんが、日本の教育の質の高さは、学校ごとに行われている授業参観が寄与していることは国際的に認められています。本書を契機に手軽に授業参観に取り組んでいただけたらと思います。